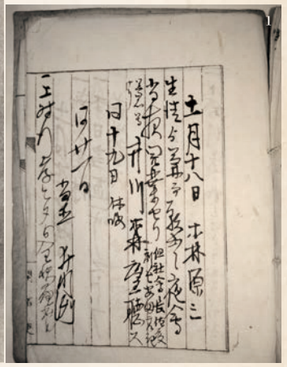
温故知新 北海道大学

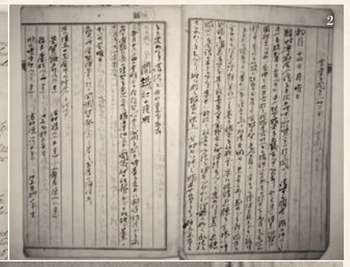
挑戦の140年

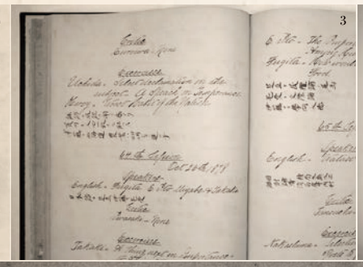
SCENE-3

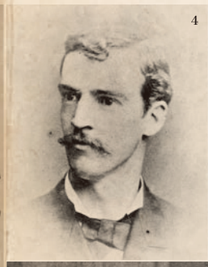
1876-1923

「開識社」と「遊戯会」









課外活動の始まり

札幌農学校の開校時、初代教頭W・S・クラークは自身が学長を務めるマサチューセッツ農科大学に倣ったカリキュラムを編成し、当時の日本の高等教育機関では例を見ない“Elocution”（演説法）を組み込んだ。英米名士の演説を暗誦して、その態度や抑揚の指導を受けるというものであった。

開校から二ヵ月半後の一八七六年十一月一日、第一期生の十九名全員が署名し、「知識を広め、同時に日本語・英語両方の演説法と文章表現法を上達させるため」、課外に文学会を開く許可願を校長に提出した。授業で学んだ演説法を、自主的な課外活動として実践的に磨く場である。

「開識社」の演説・議論・討論

十一月十八日の夜、佐藤昌介を会長として第一回会合を開き、以降、毎土曜日午後七時に開催した。この会合は結成目的に因み「開識社（かいしきしゃ）」と名付けられた。基本的に農学校生による活動であったが、時には「或る晩クラーク先生が他の教師を連れて、突然実見に来たのは最も不意の襲撃で、時に小野琢磨氏が十五分斗り立ち往生した」と佐藤が回想したように、教員が顔を出し、演説者を面食らわすこともあった。

開識社では、各人の“speech”（演説）、設定した論題に出席者各人が意見発表をする“discussion”（議論）のほか、“debate”（討論）も行った。一八七九年三月二十二日の第七十四回開識社では、「北海道ニ鉄道ヲ建築スルハ目今ノ急務」を主題として“debate”を行い、佐藤昌介・栂野四男吉が積極論、伊藤一隆・太田稲造が消極論を主張し、出席者が投票した結果、積極論に八名、消極論に二十五名の支持が集まった。開識社の活動は、農学校生の好奇心を刺激する高度な知的ゲームという側面もあった。

開識社の活動は十五年間続き、その後も形を変えて受け継がれた。

学校運動会の嚆矢「遊戯会」

一方、一八七八年六月一日、クラークと共に教師に着任したD・P・ペンハローの提案により、札幌農学校は“Athletic Sports”を開催した。当初は「力芸」「力戯」と訳していたが、後には「遊戯会（ゆうぎかい）」と呼ぶようになった。札幌農学校の遊戯会は、定期的に開催する日本最初の学校運動会であった。

第二期生である新渡戸稲造は母親に宛てた書簡に、第一回遊戯会の様子を伝えている。開拓使本庁舎の門前で実施したこと、見物人が四、五百人に上ったこと、さらに、イラスト入りで袋まとい競走・玉投げ・石投げ・跳躍・ハードル競走・目隠し競走・芋拾いなどの開催競技を説明し、競技の勝者にはハンカチ・手帳・ステッキ・香水・鏡・紙・筆・手袋などの賞品が授与されたと記載している。

注目すべきは、第三回遊戯会についても第四期生の志賀重昂が日記に「見物人山の如し」と記しているように、観客が多数集まったことである。遊戯会は当初から札幌農学校の課外活動というに止まらず、札幌近隣の住民にも娯楽を提供する文化イベントであった。そして、後の遊戯会には、茶菓の模擬店や仮装行列、他校生徒が参加する競技も加わり、札幌の街の年中行事の一つとなった。一九二〇年代に遊戯会はお祭り要素を排除した陸上競技会へと変質し、一九二三年の第四十回を最後にその名称も消えた。

「わが札幌をしてスコットランドのエジンバラの如く学芸の淵源地たらしめねばならぬ、
この地を“Athens of the North”たらしむるのが、我々の希である。」

“Athens of the North”

札幌農学校では、このほかにも聖書講義をはじめ、様々な課外活動が盛んであった。クラークと第一期生が冬の手稲山で植物採集を行ったことに始まるフィールドワークは、後に夏季休暇中の課外行事となり、学校修学旅行の嚆矢との指摘もある。

第二期生は入学時、“Athens of the North”を合い言葉に、建設間もない札幌を学芸・文化の街として「北のアテネ」にしたいと考えた。こうした思いは初期の農学校生に共通するものであっただろう。東京など本州以南の歴史ある都市とは違い、新興都市である札幌では知的欲求を満たす文化も様々な感性を刺激する娯楽も、自分たちで一から形作る必要があった。課外活動の興隆は若き熱情の発露でもあった。

1. 第1回開識社開催を記録した「当直日誌」（1876年 大学文書館蔵）
2. 開識社再建を記載した「寄宿舎記録」（1901年 大学文書館蔵）
3. 「開識社記事」（1878年 大学文書館蔵）
4. 遊戯会開催を提案したD.P.ペンハロー（1877年頃 大学文書館蔵）
5. 開識社結成に参加した第一期生（1879年頃 大学文書館蔵）
6. 新渡戸稲造による第1回遊戯会競技イラスト（1878年 盛岡市先人記念館蔵）
7. 『第拾六遊戯会報告』（1897年 大学文書館蔵）
8. 創立25周年記念遊戯会（1901年 大学文書館蔵）
9. 第3回遊戯会を記録した志賀重昂の日記（1880年 大学文書館蔵）
10. 遊戯会の絵はがき（1918年 大学文書館蔵）

Hokkaido University HISTORY 1876-1923

- 1876年11月 - クラークの助言により開識社を結成・開催
- 1877年 1月 - クラークと第1期生が手稲山でフィールドワークを実施
- 1878年 6月 - 第1回遊戯会を開催
- 1890年 5月 - 遊戯会運営組織として札幌農学校遊戯会を結成
- 1893年11月 - 前年春から活動を休止していた開識社を一時的に復活
- 1901年 5月 - 創立25周年記念遊戯会を開催
  - 9月 - 遊戯会運営組織が文武会遊戯部となる
  - 10月 - 寄宿舎において開識社を再建
- 1923年 5月 - 文武会遊戯部を陸上競技部に改編
  - 6月 - 最後の遊戯会を開催（第40回）

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。